

生きる

■ 楽曲データ

歌詞：中川静村 作詞

楽曲：森正隆 作曲

発表：大阪教区仏教婦人会連盟 1970年

初演：「大阪教区仏教婦人会連盟大会」 本願寺津村別院 1970年

初出：不明

管理番号：M0453

■ 創作の経緯

1970年、大阪教区仏教婦人会連盟大会の記念作品として制作された。大会まであと1ヶ月というときに作曲の依頼をされたものの詩がなかったため、作曲者が作詞者に電話で依頼。20日後に電話で詩を聞いて書き取り、大会前日に曲が完成したという。同年12月、龍谷混声合唱団25周年定期演奏会で混声四部合唱版が初演された。（森正隆『白い大根の花—中川静村・詩の世界』同朋社出版、1989年）

■ 校訂報告

校訂譜：『聖歌・讃歌集』第5巻収録

底資料：『合唱曲集 響流 混声編』カワイ楽譜音楽研究部 1972年

校訂の詳細：特記事項なし

■ 解説

◆ 作詞者・作曲者について

作詞の中川静村さんは、1905（明治38）年、浄土真宗本願寺派浄念寺（奈良県橿原市）に生まれ、奈良県師範学校第二部（現・奈良教育大学）において国文学および古代史を研究。卒業後、浄念寺住職となりました。その後、童話や童謡の創作をつづけ、数々の童謡集・童話集を刊行。1973（昭和48）年7月、詩集『そよ風のなかの念仏』の出版準備中に68歳で亡くなりました（詩集は8月に刊行されました）。

作曲の森正隆さんは1925（大正14）年、大阪に生まれました。大阪・蓮光寺前住職です。1945（昭和20）年に復員、龍谷大学に復学後は前記の龍谷混声合唱団創設のため奔走。翌年、合唱団が発足し、第1回演奏会が行われました。以後、この合唱団は今日に至るまで、数々の仏教讃歌を創作し初演しています。龍谷大学卒業後は、自坊で混声合唱団「コール・ルンビニー」を主宰。1979（昭和54）年、第3回正力松太郎賞を受賞。仏教讃歌では、『アソカの園』『仏教壮年の歌』などの作曲があります。

◆詞について

詞は、1番から3番まで、5・5／5・5／5・7／5・7というリズムを持っています。この詩自体が持つリズム感が、曲のなかにも十分に表現されています。

題名は「生きる」という主体的な表現になっていますが、内容は阿弥陀如来の慈光のなかに生かされているよろこび、いのちの不思議さが、詩人自らの内面への問いかけとして表わされています。

◆歌い方について

- ①詩を声に出して何度も読んでみましょう。
- ②2小節ごとに同じリズムがくり返されます。徐々に大きく、そして内面からあふれる声で歌いましょう。
- ③3小節目の「ラ」の音が低くなりがちです。注意しましょう。
- ④6小節目3・4拍目、4分音符ふたつが遅くならないように。
- ⑤8・9小節目はゆっくりかみしめるように。
- ⑥3番の最後は、デクレッシェンド（だんだん弱く）ではなく、クレッシェンド（だんだん強く）します。よろこびに満ちて歌いきりましょう。

◆用途

降誕会や初参式、仏前結婚式などで歌っていただきたい作品です。

解説執筆：大分哲照（御堂演奏会指揮者 福岡教区西嘉穂組明圓寺住職）

※本解説は、「メロディーの宝石箱」No. 12（仏教婦人会総連盟機関誌『めぐみ』第137号収録）を加筆・修正のうえ、転載。